

中学校第1学年2組英語科授業案

平成24年6月15日
場所：多目的室
授業者：横山 千晴

[キーワード] 逆向き設計による単元構成 パフォーマンス課題 ルーブリックによる評価

1 単元名 Unit3 はじめまして、ブラウン先生 (NEW HORIZON English Course1)
「なりきり名人になろう」

2 単元を貫く問い

必要な情報をわかりやすく伝えたり、適切に聞き出すにはどうしたらよいか。

3 目標

(1) 目標

発表会で、なりきった人物の自己紹介をしたり、聞いたりして、質疑応答をすることができる。

(2) 評価規準【学カデザイン レベル2, 3】

イ 自分が関心のある事柄についての情報を含めた、簡単な自己紹介ができる。【外国語表現の能力】

ア 間違ふことを恐れず、積極的に自己紹介したり、たずね合ったりする活動に取り組んでいる。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

ウ 教科書の内容を正しく読み取ることができる。

【外国語理解の能力】

エ 一般動詞を使った肯定文、否定文、疑問文とその応答について理解している。

【言語や文化についての知識・理解】

4 生徒の実態

本学級の生徒は、英語を使って活動することに、大変興味を持っている。Unit1で行ったグループでのスキット発表では、教科書の会話をベースに、場面設定や登場人物を変えて行い、小学校で習った表現や、帯学習の表現をうまく取り入れながら表現活動を行うことができた。英語授業導入の段階で行った英語学習履歴調査で、あいさつや自己紹介など、中学校1年生の初期の段階で学ぶ内容は、一通り小学校で音声としてふれていることが明らかになっており、授業の中での生徒との英語でのやりとりでもそれをうかがい知ることができる。しかし、今後は、音声としてだけ認識されているものを文字を伴って認識させるために、文字と音声を一致させ、書いて表現することにも慣れさせる必要がある。

5 内容

本単元は、Unit1から対話形式でストーリーがつながっており、ブラウン先生が初めての授業で自己紹介をしたあと、生徒たちが先生にインタビューする設定となっている。be動詞を使った肯定文、疑問文とその応答及び否定文は、限られた代名詞(I, you, he, she) を用いてできるようになっているが、今回の一般動詞を用いた表現を扱うことで、自分を語る上で必要な言語材料がある程度揃うことになる。

本校英語科では、自律した英語学習者の育成を目指し、逆向き設計による単元構成を行い、ルーブリック評価を伴うパフォーマンス課題に取り組んでいる。本単元では、Unit2で作成した自己紹介文をベースに、加筆をしたうえで、発表をおこない、Q&A活動に取り組み、「なりきり名人」と題して、生徒が、有名人やキャラクターなどから自由に選び、その人や物になりきって自己紹介をし、他の生徒と質疑応答をして、自分が何者であるのか当てさせるパフォーマンス課題に挑戦する。その過程で、佐賀県中学校教育研究会英語部会で研究を進めている「佐賀メソッド」を活用し、ゴールへと近づける。この課題を通し、生徒に対して、期待するのは以下の4つである。

①発表原稿を作成する上でのポイントを知る。

②発表をするときに大切な要素を知る。

③教科書やUseful Expressionsで学んだ表現を駆使しながら自分が必要な情報を得るために質問したり、答えたりすることを体験することができる。

④自分がどの段階に位置するのかを知り、自己修正をかけるためのルーブリック評価に取り組む。

本単元を貫く問いを、「必要な情報をわかりやすく伝えたり、適切に聞き出すにはどうしたらよいか。」とし、以下のパフォーマンス課題を設定した。

パフォーマンス課題：「なりきり名人になろう」

あなたは、みんなが知っている〇〇さんです。でも、みんなには名前は言えません。

自分が誰かグループのみんなに当ててもらわなければいけません。スピーチの後、インタビューがあります。そのインタビューに、〇〇さんになりきって答えてください。

6 方法

(1) 対話やコミュニケーション

①自己紹介の発表活動をする際に、交流を通して自分の表現を高めることができる。

②パフォーマンスを見せ合うことで、その重要な要素に全体で気づき、自分自身のパフォーマンスの質を向上させることができる。

(2) 言語活動

①教科書の本文の背景を読み取り、より自然な対話文を作るために、共感的・批判的に聞く。

②自分がなりきった人物の情報を伝えるために、わかりやすく説明する。

7 単元の授業過程(全7時間)

過程	課題と内容 【言語活動】	時間	教師の指導・支援	評価とその方法
導入	1 Unit3の見通しを持つ	0.5	(1) 到達目標やパフォーマンス課題を明示し、見通しを持たせる。 (2) ピクチャーカードを用い、内容について説明を加えたり、質問したりして確認しながら内容把握させる。	ウ 教科書の内容を正しく聞き取ることができる。 【観察、ワークシート】
	2 教科書 P28 ~ P33 までの内容をつかむ 教科書の内容をつかもう			
問い: 必要な情報をわかりやすく伝えたり、適切に聞き出すにはどうしたらよいか。				
展開	3 新出文法をつかむ 新出文法について理解しよう	0.5	(3)-1 教師との対話の中で新出文法を導入し、生徒の理解を促し、ポイントを押さえる。 (3)-2 ワークシートを利用して、繰り返し練習させる。	エ 新出文法の知識を身につけている。 【ワークシート】
	4 音読練習 本文の背景を読み取り、より自然な対話文を作ろう 【⑧共感的・批判的に聞く】	1.0	(4) ペアでダイアログの間に文を書きたし、完成させた上で感情を込めて音読練習をさせ、発表させる。 (佐賀メソッドRBL&W活動)	
	5 自己表現 一般動詞(have, like, want, come, speak, drive, come, walk)を加えて、自己紹介文をグレードアップしよう	2.0	(5)-1 Unit2で作った自己紹介文につなげて、よりよい自己紹介を作るようにさせる。 (5)-2 暗唱して列(スネークフォーメーション)で発表し、QandAの練習をさせる。	イ 既習の表現を用いて正しく書くことができる。 【ワークシート】
	6 パフォーマンス課題 「なりきり名人」になろう 【① 説明する】 マッピングで情報を整理しよう 聞き手にわかりやすく発表し、より多くの情報を集めるために質問をしよう。	3.0	(6)-1 教師のモデルを示し、ゴールの姿をイメージさせ、発表や質疑応答を行う際のポイントを押さえ、ルーブリックを提示する。 (6)-2 なりきる相手について、マッピングさせ、紹介文を作成させる。教師のチェックを受け、覚えて発表できるように指示する。 (佐賀メソッドマッピング活動) (6)-3 紹介に対して、予想されるQ&Aを準備させる。 (佐賀メソッドQ&Aメーカー活動) (6)-4 学級を5つのグループに分けた内の2グループに発表させる。発表内容や質問した事項から、相手が誰であるか当てさせ、正解後は、より情報を集めるために質問させる。 (6)-5 シェアリングを行い、次時につなげるようにさせる。 (6)-6 残りの3グループの発表会を行う。	イ 聞き手に分かりやすいように工夫して発表することができる。 ア より多くの情報を得るために、間違いを恐れずに質問している。 【観察、ワークシート】
まとめ			(6)-7 シェアリングを行い、パフォーマンス課題についての振り返りを行う。	

8 本時の授業

(1) 本時の指導目標

- ① 発表に必要な観点を意識させながら、発表を行わせる。
- ② 発表内容を正しく聞き取り、必要な情報を得るために質問させる。

(2) 本時の評価規準

- イ 聞き手を意識して、既習事項を活用し、話すことができる。 【外国語表現の能力】
- ア 情報を集めるために、間違いを恐れず積極的に質問している。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

(3) 本時に期待する生徒の学び

- ① 互いの発表から、どういった内容や発表方法が良いか理解しようとしている。
- ② グループのメンバーの発表に対して、質問を考えて情報を得ようとしている。

(4) 本時の授業過程【全7時間 本時7/7】

過程	学習活動と内容【言語活動】	形態	教師の指導・支援	評価とその方法																																						
WU	0 Useful Expressions greetings	斉																																								
導入	1 本時の見通しをもつ	斉	(1)-1 授業の流れを確認させ、見通しを持たせる。																																							
<p>パフォーマンス課題：「なりきり名人になろう」 あなたは、みんなが知っている〇〇さんです。でも、みんなには名前を言えません。自分が誰かグループのみんなに当ててもらわなければいけません。スピーチの後、インタビューがあります。そのインタビューに、〇〇さんになりきって答えてください。</p>																																										
<p>(1)-2 ルーブリックを提示し、発表において目指すところ、聞く側において目指すところを確認させ、目標を立てさせる。</p>																																										
<p>課題：聞き手にわかりやすく発表し、より多くの情報を集めるために質問をしよう。</p>																																										
展開	<p>2 グループに別れて、発表会を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★なりきり名人 モデル文★ Hello, everyone. I'm from Nagasaki. I'm 43 years old. I like music very much. I'm a singer. I'm an actor, too. I sing "Sakurazaka", "HELLO", "It's only love." Please come to my concert! Thank you.</p> <p>-----</p> <p>Do you have any brothers? Yes, I do. Do you play the guitar? Yes, I do. What TV program do you like? I like Ryomaden.</p> </div>	G	<p>(2)-1 3つのグループに分け、それぞれの進行を発表を行わないグループで割り振って行わせる。 (2)-2 発表が終わった時点で、誰なのかかわかったか〇×の札を上げさせて確認させる。全員〇ならば、答え合わせをさせる。その後は時間いっぱい、より多くの情報を得るために質疑応答をさせる。×の人がいる場合、質問をすることで、〇に変わるように活動する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>発表、質疑:2分30秒 評価表記入:30秒</p> </div> <p>(2)-3 発表が終わったら、発表した人の発表に関して、ルーブリックを記入させる。</p>	<p>イ 聞き手に分かりやすいように工夫して発表することができる。 ア より多くの情報を得るために、間違いを恐れずに質問している。 【観察、ワークシート】</p>																																						
<p>パフォーマンスルーブリック</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3">友だちの評価</th> <th colspan="3">自分の評価</th> </tr> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">発表の仕方</th> <th rowspan="2">発表の内容</th> <th colspan="2">発表の仕方</th> <th rowspan="2">質疑 質問</th> </tr> <tr> <th>声の大きさ</th> <th>視覚情報等</th> <th>声の大きさ</th> <th>視覚情報等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A (5)</td> <td>相手にはっきりと伝わる声の大きさを発表している。</td> <td>Visual aids や gesture 等を用いて、間合い、アイコンタクトなどに配慮して聞き手によく伝わるように発表できる。</td> <td>相手が話している内容が全てわかる。</td> <td>相手にはっきりと伝わる声の大きさを発表している。</td> <td>Visual aids や gesture 等を用いて、間合い、アイコンタクトなどに配慮して聞き手によく伝わるように発表できる。</td> <td>4回以上質問することができる。</td> </tr> <tr> <td>B (3)</td> <td>部分的に相手が聞き取りにくい声の大きさを発表している。</td> <td>Visual aids や gesture 等を用いているが、示すタイミングや内容との関連に工夫がない。また、数回原稿に目を落としながら発表している。</td> <td>相手が話している内容でわからないところが、1～2カ所ある。</td> <td>部分的に相手が聞き取りにくい声の大きさを発表している。</td> <td>Visual aids や gesture 等を用いているが、示すタイミングや内容との関連に工夫がない。また、数回原稿に目を落としながら発表している。</td> <td>2～3回質問することができる。</td> </tr> <tr> <td>C (1)</td> <td>相手が聞き取りにくい声の大きさを発表している。</td> <td>Visual aids や gesture 等を用いておらず、ずっと原稿を見ながら発表している。</td> <td>相手が話している内容でわからないところが3カ所以上ある。</td> <td>相手が聞き取りにくい声の大きさを発表している。</td> <td>Visual aids や gesture 等を用いておらず、ずっと原稿を見ながら発表している。</td> <td>1回質問することができる。</td> </tr> </tbody> </table>					友だちの評価			自分の評価				発表の仕方		発表の内容	発表の仕方		質疑 質問	声の大きさ	視覚情報等	声の大きさ	視覚情報等	A (5)	相手にはっきりと伝わる声の大きさを発表している。	Visual aids や gesture 等を用いて、間合い、アイコンタクトなどに配慮して聞き手によく伝わるように発表できる。	相手が話している内容が全てわかる。	相手にはっきりと伝わる声の大きさを発表している。	Visual aids や gesture 等を用いて、間合い、アイコンタクトなどに配慮して聞き手によく伝わるように発表できる。	4回以上質問することができる。	B (3)	部分的に相手が聞き取りにくい声の大きさを発表している。	Visual aids や gesture 等を用いているが、示すタイミングや内容との関連に工夫がない。また、数回原稿に目を落としながら発表している。	相手が話している内容でわからないところが、1～2カ所ある。	部分的に相手が聞き取りにくい声の大きさを発表している。	Visual aids や gesture 等を用いているが、示すタイミングや内容との関連に工夫がない。また、数回原稿に目を落としながら発表している。	2～3回質問することができる。	C (1)	相手が聞き取りにくい声の大きさを発表している。	Visual aids や gesture 等を用いておらず、ずっと原稿を見ながら発表している。	相手が話している内容でわからないところが3カ所以上ある。	相手が聞き取りにくい声の大きさを発表している。	Visual aids や gesture 等を用いておらず、ずっと原稿を見ながら発表している。	1回質問することができる。
友だちの評価			自分の評価																																							
	発表の仕方		発表の内容	発表の仕方		質疑 質問																																				
	声の大きさ	視覚情報等		声の大きさ	視覚情報等																																					
A (5)	相手にはっきりと伝わる声の大きさを発表している。	Visual aids や gesture 等を用いて、間合い、アイコンタクトなどに配慮して聞き手によく伝わるように発表できる。	相手が話している内容が全てわかる。	相手にはっきりと伝わる声の大きさを発表している。	Visual aids や gesture 等を用いて、間合い、アイコンタクトなどに配慮して聞き手によく伝わるように発表できる。	4回以上質問することができる。																																				
B (3)	部分的に相手が聞き取りにくい声の大きさを発表している。	Visual aids や gesture 等を用いているが、示すタイミングや内容との関連に工夫がない。また、数回原稿に目を落としながら発表している。	相手が話している内容でわからないところが、1～2カ所ある。	部分的に相手が聞き取りにくい声の大きさを発表している。	Visual aids や gesture 等を用いているが、示すタイミングや内容との関連に工夫がない。また、数回原稿に目を落としながら発表している。	2～3回質問することができる。																																				
C (1)	相手が聞き取りにくい声の大きさを発表している。	Visual aids や gesture 等を用いておらず、ずっと原稿を見ながら発表している。	相手が話している内容でわからないところが3カ所以上ある。	相手が聞き取りにくい声の大きさを発表している。	Visual aids や gesture 等を用いておらず、ずっと原稿を見ながら発表している。	1回質問することができる。																																				
まとめ	3 自己評価、振り返りを行う	斉	<p>(3)-1 ルーブリックを用いて、自分の活動に関して振り返りをさせる。 (3)-2 各グループの得点係に得点を、コメント係にコメントを発表させ、今回の発表を振り返りまとめる。</p>																																							
展望	4 次の時間の学習活動と内容を把握する	斉																																								

